

| | | | | |
|-------|-----------|------|------------|------|
| ～2022 | 児童・家庭福祉演習 | 単位数 | 履修方法(授業形態) | 配当学年 |
| | | 2単位 | SR(演習) | 1・2年 |
| | | 担当教員 | 竹之内 章代 | |

■授業のテーマ

子ども、家庭、女性のソーシャルワークと、その支援のあり方を考える

■授業の目的

子どもや家庭、女性のソーシャルワーク実践を通じて、諸問題の抽出やそれらの課題の解決に向けて、実践力の習得や研究の視点を考察できる。

■授業の到達目標

- ・子ども家庭福祉の歴史、核となる理念、ソーシャルワークの視点を説明できる。
- ・子ども家庭福祉のソーシャルワーク実践の学びを通じて、現状や課題を説明できる。

■授業の概要

ここでは、子どもや家庭、女性への具体的な支援や文献と通じて、その支援方法を学ぶことと、実践から抽出された課題について解決のための方策を考察する。そのさい、実践をする人としてのソーシャルワーカーの専門性についても、考察を深めていきたい。さらに、これらの考察から、自らの問題意識を明確にし、今後の研究課題となる要素を抽出できるように進めていきたい。

■スクーリングの事前課題（学修時間の目安：6時間）

事前学修時間として、6時間を想定している。

参考文献の読み込み、福祉課題の抽出、ソーシャルワーク実践上の課題をそれぞれまとめてスクーリング当日に持参してください。（実践事例などがある方は、事例から福祉課題の抽出、具体的な介入方法とその結果、評価と課題についてまとめてください。）

■スクーリング授業計画（状況に応じて会場ではなくリモートで実施します）

| | 授業の内容 | 授業の方法 |
|---|---------------------------------------------------------------|------------------------------------------|
| 1 | 「子ども家庭福祉」「女性福祉」の史的展開から現代的課題を確認する。 | 12コマのうち オンデマンド8コマと 対面4コマで 行います。 |
| 2 | 「子ども家庭福祉」「女性福祉」の課題とソーシャルワークの視点の関連を確認する。 | |
| 3 | 抽出された課題と関連する制度やサービス、社会資源について確認する。 | |
| 4 | ソーシャルワークにおける事例検討の意義と方法について確認する。 | |
| 5 | 事前課題について各自からのプレゼンを行い、受講者で共有する。事例検討を行う。（ミク口からメゾに関する課題） | |
| 6 | 事前課題について各自からのプレゼンを行い、受講者で共有する。事例検討を行う。（メゾからマク口に関する課題） | |
| 7 | 事前課題について各自からのプレゼンを行い、受講者で共有する。事例検討を行う。（アドボカシー、権利擁護に関する課題） | |
| 8 | 事前課題について各自からのプレゼンを行い、受講者で共有する。事例検討を行う。（支援の専門性やチームアプローチに関する課題） | |
| 9 | 事例検討から得られた課題の整理を行う。（上記5回・6回で明らかになったことを中心に） | |

| | 授業の内容 | 授業の方法 |
|----|------------------------------------------------|-------|
| 10 | 事例検討から得られた課題の整理を行う。(上記7回・8回で明らかになったことを中心に) | |
| 11 | 「子ども家庭福祉」「女性福祉」に関する自らの問題意識を明らかにし、プレゼンテーションを行う。 | |
| 12 | 自らの研究課題に向けて今後の学修についての方向性を確認し、演習のまとめを行う。 | |

■スクーリングの事後課題

| | |
|------|-------------------------------------------------------|
| 課題 1 | 子ども、家庭、女性を対象としたソーシャルワークの課題について、スクーリングで学んだ視点をもとに論じなさい。 |
|------|-------------------------------------------------------|

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

スクーリングにおける事例研究等を通じて、明らかになった自らの問題意識や研究課題について、参考文献等を参考に、学びを振り返ってください。

■評価の方法・基準

スクーリング時の参加度30%、事前課題10%、プレゼンテーション30%、事後課題レポート30%

■参考文献（*印=大学から送付される必読図書）

「児童・家庭福祉論研究」を参照してください。

そのほかについては、必要に応じて適宜、指示します。